

キャリア意識形成 第7回

社会で働く②

月曜3限

担当講師 角田伸彦

前回の学習

前回は業界・業種・職種そして業態について学習しました。
皆さんは、専攻を選ぶ際にすでにやりたい仕事のイメージを持っていた人が多いと思います。
その場合、業界業種という括りにたいする関心よりも具体的な職種への意識が強いのではないのでしょうか。
ただ、それはあくまでイメージに過ぎないこともあります。
働き方の観点からイメージの検証をしてみましょう。
これまで具体的なものがない人はこの機会に一步踏み込んで考えてください。

正社員（正規雇用）＊ 正職員ともいう

<特徴>

終身雇用

フルタイムで定年まで雇用期間を定めずに働く（正規雇用）

年齢と共に給料が上がる（年功序列）
（有期雇用の正社員も存在する）

パートタイマーとは何？

短時間労働者

一週間の労働時間が同一の事業所で働くフルタイムの社員よりも短い労働者

正社員との差別的な扱いは禁止されている。

アルバイトとは何？

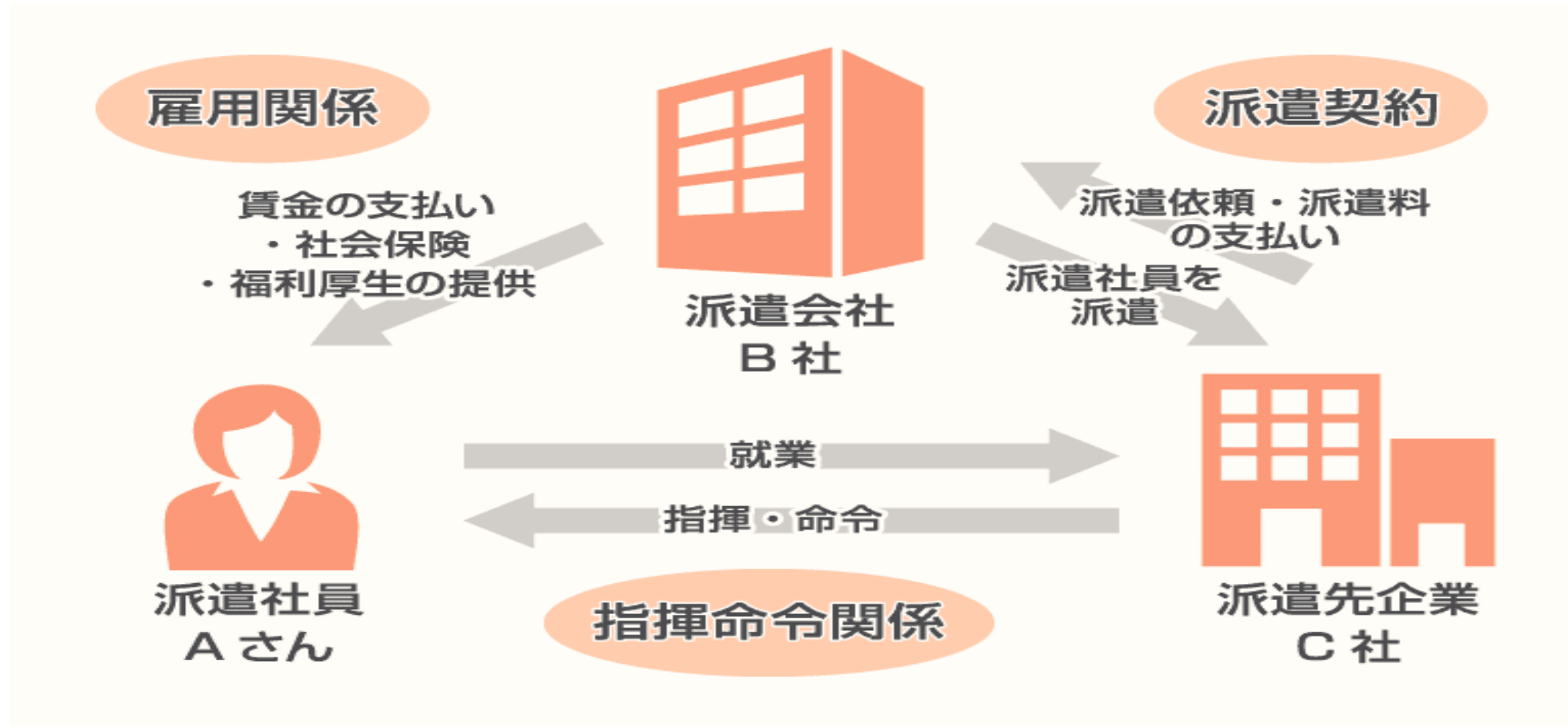
期間の定めのある労働契約に基づき雇用される従業員または労働者

年次有給休暇をはじめとする労働者の権利の行使、会社が正社員に提供する福利厚生などの対象になる。

フリーターとは

正社員・正職員以外の就労形態で生計を立てている人
(学生を含まない)

派遣社員とは何？（約6割が女性）



登録型派遣



派遣社員

派遣会社に求職者として登録



派遣契約期間中のみ社員として
雇用し、給料を支払う



派遣会社

無期雇用派遣



派遣社員

選考を受け社員として入社



派遣契約期間であるかどうかに関係なく社員として雇用し、給料を支払う



派遣会社

嘱託社員とは何？

一般的に定年後に引き続き会社に所属する場合が多い。

(法的な定義はない)

業務嘱託 請負

仕事を完成させることを目的としたもので、成果物に対して報酬が支払われる

- 仕事の依頼や業務従事の指示等に対し、諾否の自由がない
- 業務の内容や遂行方法について本人の裁量の余地があまりない
- 業務場所や勤務時間が指定され、拘束される
- 本人のかわりに他の者が労務提供したり、本人が自己の判断により補助者を使うことが認められていない

契約社員とは何？

企業などと有期労働契約を結んで職務に従事する労働者。

フルタイムの社員と同じ職務を求められる

賞与はない場合が多い

退職金はない場合が一般的

継続的な雇用が保証されていない

考察

正社員や正職員（正規）としての働き方とそれ以外の働き方（非正規）について考えてみよう。

（例： 派遣社員 契約社員 パート・アルバイト
嘱託社員 臨時社員 有期雇用社員
日々派遣 在宅ワーカー等）

それぞれのメリットやデメリットについて書き出してみよう。

正社員（正規）のメリットとデメリット

（メリット） ボーナス支給 各種手当の支給
昇給（定時昇給） 年功制
退職金 積み立て貯蓄
社会的信頼性 安定性

（デメリット） 残業
業務命令優先
職種希望が叶わないこともある

非正規のメリットとデメリット

(メリット) 自分のライフスタイルに合わせて働ける
責任が小さく限定的
希望職種を選びやすい
基本的に転勤移動はない
採用されやすい

(デメリット) 安定しない 給料が低め(賃金格差)
ボーナスや手当の支給がないかあってもわずか
有給休暇が少ない(有期契約のため)

正社員のような非正規社員のあり方に「無期雇用」というのがある

- 「無期雇用」があります。1年契約の非正規の人が同じ職場で通算5年働いた場合、有期ではなく、無期限での雇用に切り替えるというものです。
- パートでも、雇用者側には「パートタイム労働法」により公正な待遇の確保や正社員への転換などを検討することが義務づけられています。

正社員と非正規社員それぞれの年収

正社員の平均年収: 477.7万円

非正規社員の平均年収: 169.7万円

雇用されて働く

安定と安心

会社にも守られる⇒ 社会保険 雇用保険 福利厚生

サラリーマン(サラリーウーマン)として給料生活者

時間と能力をお金と交換する(給与)

転勤や異動がある

年齢上昇や経験と能力向上によって付加価値が上昇⇒昇進・昇格

ステイタスの上昇

(給料上昇)

雇用されて働くことの利点

社会人としての学びの機会が多い

実務家としての経験を積める(実務からの学び)

教育研修を受ける機会が多い(学習機会が多い)

役職などの上昇によって能力を向上させられる

年数経過に伴い発達段階における成長が可能

先輩や同僚とのポジティブなつながり

< 難点 >

時間的拘束 自由の制限 責任と義務の連鎖

他者との軋轢と葛藤



多くのストレス



独立・起業

起業・独立

(会社を立ち上げる・個人事業主になる)で働く

不安定と不安

自己責任での活動(自分自身で守る)

仕事なければ収入はない

- どうしても自分のやりたいことがある(資格を使い開業)
- とにかくビジネスがやりたい(お金がほしい)
- 自分のやりたいことはサラリーマンではできない
- 他人に使われたくない(命令や指示を受けて仕事をしない)

独立起業

- 会社をつくる

資本金は1円からでも大丈夫

法人として社会的信頼が得られる

- 個人事業主

資格(税理士・司法書士・弁護士など)を活用して開業。信用性は大
社員を雇わず自分だけで事業を行う。社会的信用は薄い。

コンサルタント業 一人親方 等 多種多様の仕事がある

個人事業主

- 個人事業主（こじんじぎょうぬし, Self-employment）は、株式会社等の法人を設立せずに自ら事業を行っている個人をいう。個人事業者、自営業者ともいう。
- 事業者
 - 法人事業者（法人経営者）
 - 個人事業者（個人事業主、自営業者）
- 事業主一人のみ、家族のみ、あるいは少数の従業員を抱える小規模の経営が一般的だが、制限はなく、大規模な企業体を経営することも出来ないわけではない。雇用されている者（サラリーマンのこと）は個人事業主ではないが、継続的な請負（下請）や納入をする業者、代理店など、雇用でない契約によって他者の事業に従属する者はあくまで独立した経営であり、それが法人形態でなければ個人事業主である。
- そもそも事業主は、事業を経営する個人や法人・団体を指すが、法律上では使用者（経営者）を指す。

会社と個人事業主の違い

【信頼がアップ！】

- 会社という形は、やはり「信頼度」が違います。
例えば、新規営業をかけるときにも、個人事業主より、会社の方がはるかに有利です。
平成18年の株式会社の様々な規則を定めた会社法の施行により、株式会社の設立は「1円」から可能になりました。しかし、資本金200万～1000万円の会社が、いちばん多く存在します。会社設立の際にある程度の資本金を用意することで、取引先、銀行からの信頼がアップするからです。

【資金調達の選択肢が増える】

- 会社設立により信頼性が上がるということは、個人事業主に比べて資金調達の面でも有利になります。
- 銀行が融資の判断基準とするのが、「本当に返済が可能かどうか」という点です。
会社はお金の流れはすべて帳簿付けしてあるので、返済能力を判断することが可能です。
また、会社設立をすることで、投資家やVCから資金調達できる可能性も生まれます。

日本の個人事業主の例

- 例えば銀行業のように法人でなければ認められない事業もあるが、法令の制限がない限り、あらゆる事業を行える。主なものとしては以下がある(もちろん、個人事業主ではなく被雇用者としてその業についている者もいるが、各種士業や医師やスポーツ選手や芸能人などの場合、個人事業主とは呼ばず、それらの職業で呼ぶのが普通である)。
- 個人事業主は、仕事をしている者の中で、会社経営者でもサラリーマンでも公務員でもアルバイトでもない者のことであるため、職種や年収には非常に大きな開きがあると言われている。一般的に、個人事業主には福利厚生は用意されず、確定申告の作業や取引先との詐欺や訴訟のリスクも1人で抱えるため、非常にリスクの高い働き方となる。但し、収益はすべて自身に帰属するため成功した際のリターンの大きい働き方でもある。

- **第一次産業**
- 各種農業・林業・畜産業・水産業（農家、漁師など）
- **第二次産業**
- 各種建設業・一人親方・建築家・塗装屋
- 各種製造業・アーティスト・デザイナー
- **第三次産業**[編集]
- 各種流通業・小売業・飲食業（商店主）・サービス業・旅館業
- 各種運輸業・個人タクシー
- 各種金融業
- 各種コンサルタント
- 各種プログラマ
- 各種士業

芸能・プロスポーツ選手・漫画家・音楽家

- 病院・診療所を開設する開業医（一人医師医療法人は除く）
- 施術所を経営するはり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師・柔道整復師
- 動物病院を経営する獣医師
- 薬店・調剤薬局を経営する薬剤師（商店主）
- 理容所を経営する理容師（商店主）
- 美容所を経営する美容師
- 著述業関係

いろんな職業や雇用形態、業務形態がある

同じ内容の業務や職種であっても雇用の形態が異なっている場合も少なくありません。それによって待遇などが随分違っているのです。

安定と不自由

不安定と自由

この二つの事柄は常に存在します。

あなたはどのような働き方を選ぶのでしょうか？

* 今回のスライドのなかで、わからない言葉などは自分で調べてください。

職業情報の獲得

これまで得た情報や周囲のおとな達の様子から、みなさんは職業イメージを持つようになってきています。

かつては、周囲の働く人を見て、テレビなどで紹介される職業を観て「やりたいなあ」とか「なってみたい」とか憧れを抱いたこともあったと思います。しかし、それらから得られる情報は現在から比べればとても限定的で少ないものでした。

今ではインターネットのおかげで、瞬時に様々な情報が入手できます。職業情報も調べ方さえ判れば簡単に手にすることが可能です。企業のホームページがとても便利です。しかし一番は生情報ですね。

今回の課題

(テーマ) 社会人から学ぶ 「職業インタビュー」

身近にいる社会人(友人・知人・家族)にインタビューしてください。

その結果、学んだことをレポートにして提出してください。

* インタビュー(質問)は今回学習した内容を踏まえて自分で考える
(なぜ今の職業を選んだのか)(なぜ今の仕事をしているのか)

* あくまであなたの今後の参考にするためであると説明し丁寧に
お願いすること

期限6月19日20時 400字以内、学籍番号、氏名記入すること

* 6回欠席者は失格